



Rotary International District 2800
2017~2018
TAKAHATA ROTARY CLUB

WEEKLY REPORT

会長 山 村 義 美 幹 事 庄 司 薫

<http://takahata-rc.net>

例会 每週木曜日 12:30~13:30 旅館 エビスヤ

事務局 山形県高畠町大字高畠 911-2/2F tel 0238-52-5440 · fax 0238-52-5444



ロータリー：
変化をもたらす

今日の例会 [2437th] 2018. 6. 7

ゲストスピーチ

株式会社 パスラボ

代表取締役社長 吉村和文氏

前回の例会 [2436th] 2018. 5. 24

ゲストスピーチ

高畠町役場 商工観光課

地域活力創生プロデューサー

外 蘭 明 博 氏

はとみね荘との交流会

- 点鐘 12時30分 山 村 義 美 会長
- 県 民 歌 最 上 川
- ロータリーソング 奉 仕 の 理 想
- ソングリーダー 木 村 健 彦 君
- S A A 若 林 智 次 君

会長あいさつ

山村 義美 会長

みなさんこんにちは。

今日はとても良い天気で、清々しい気持ちです。ようやく高畠町の田圃にも水がはいり、田植えも始まりました。田植えが終わった所をみると、安心すると言うか落ち着く良い季節になりました。

先週の土曜日に東京で結婚式があり、家族で参加して参りました。海の見えるホテルでとても素敵な新郎新婦に感動して参りました。二次会が終わり、東京湾のナイトクルーズ船に乗り、東京の夜景を海から観てきました。青春時代東京湾で働いたのでとても懐かしくおもいました。

本日のゲストスピーカーをご紹介致します。

高畠町役場 商工観光課 地域活力プロデューサー 外蘭明博様です。

本日は大変お忙しい中ありがとうございます。
後程講話をよろしくお願ひいたします。

《会長の時間》

- RC野球東北大会日程が決定致しました。
10月12~13日(土) 大船渡で開催です。
ご予定を開けておいて下さい。

《幹事報告》

庄司 薫 幹事

- 山形県縦断駅伝大会・山形県女子駅伝大会 南陽 東置賜チームに対しての賛助金のお礼状をいただきました。
- 寒河江さくらんばRC創立30周年記念式典参加のお礼状をいただきました。

《委員会報告》

奉仕プロジェクト委員会 青木 道春 委員長

- 午後2時より「はとみね荘」で交流会を開催致します。
尚、6月14日には「まほろば荘」との交流会を開催致します。ご参加お待ち致しております。

S A A 若林 智次 委員長

- 薬物乱用のパンフレットと冊子が届きました。
ご一読下さい。

スマイルBOX

- 娘が就職内定をもらいました。

金子 良弘 君

- 姪の結婚式で東京に行ってきました。

山村 義美 君

- ゲストの外蘭さんには昨日もお世話になり 4商店街ワークショップをお手伝いしていただきました。

吉田 弘二 君

- 外蘭さんのご講話楽しみにしています。

庄司 薫 君

ゲストスピーチ



高畠町役場 商工観光課

地域活力創生プロデューサー

外 蘭 明 博 氏

「何が高畠町の本当の強みなのか?」健康視点から町づくりを考える

「なぜ、有機農業発祥の地である高畠町(一昔、ゆうきの里は、西の綾町、東の高畠と呼ばれた)に私が移住したのか?

それは、日本政府のデータや私の10年間の国内外での教育実践から感じた危機意識「日本人のいのちそのものが危機的状況に陥っている」からである。身土不二(しんどふじ)という言葉が示しているように人体(腸内細菌)=土(微生物、土壤菌)であるため、いのちの源泉である、食(根っこ)や生活そのものから変革しなければ日本全体が元気になることはない。私は、生活をかけて高畠町で「新たな人づくり、健康づくり」に挑戦する決意を固めた。

しかし、現地に来てみると、「地元の人たちが一高畠食一の可能性に誇りや特別意識をもっていない(当たり前)の感覚になっている。正式には、本当の社会的な価値に気づけていない。」

はとみね荘との交流会



《出席報告》

会員数 48名 出席者数 21名 出席率 43.75 %
前回修正 出席者数 31名 出席率 64.53 %

《メークアップ》

鈴木 征治 君・杉森 文昭 君・長谷川春海 君
高橋 正人 君・高梨 恭行 君・山村 義美 君
加藤由香里 君・金子 良弘 君

次の例会 [2438th] 2018. 6. 14

クラブ協議会

私の言葉でこれから新たな価値を発信していくために、高畠の農業史が集約された高畠学(藤原書房)を最初から最後まで読み漁った。

「今の日本の社会問題、世界の社会問題を解決するために高畠の資源を活用できないか?」

私の答えは、『農を通じた(高畠)食と健康的な町づくりのブランド化』。人づくり、町づくりの中心に「食で健康的な町づくり」を据えるということ。

そして、国連SDGsや学校教育、社会全体で、一いのちの価値一が呼ばれる中、高畠をグローバルな範囲で【健康問題、環境問題、教育問題を解決する教育研修のメッカ】になると決めた。そのためには、町民で「健康」を発信している人々から啓蒙する必要がある。そもそも「健康とはなにか?」「病気とはなにか?」「人づくりとはなにか?」から始めなければならない。

私が体系统化した和法KARADAチューニングの健康体づくりの知恵も活用しながら、健康の原点は、「日本人の暮らしの中にある(衣食住)」ということを、実演ワークやワークショップを記載し、発酵食の価値を実感してもらおう。

いかに「欧米的な要素が私たちの生活にありふれているか?それによって、どんな影響が身体と心にもたらされているのか?についても触れる。

さらに、世界視野から「日本食の可能性」を様々な国の事例を用いて紹介する。日本人は食から環境を配慮した循環型農業&社会形成にまで高めたことも押さえおきたい。私が高畠町にきて、高畠産のお米とお味噌、漬物、納豆(一汁三菜食)でいかに健康的な生活を送っているかもお伝えしたい。